



菊武学園フラッシュニュース

歌、踊、劇 2年間の学び表現 短大の「保育演習発表会」



「企画力、表現力を見て」一。名古屋経営短期大学子ども学科2年生が、2月10日、文化

ホールで、尾張旭市内の4保育園児140名を招き、保育専門演習の発表会を行いました。保育実習を終えた学生に、2年間で学んだ保育士としての総合力を試してもらいました。

最初に2年生全員で「アンパンマンマーチ」などを合唱すると、園児たちは一緒に歌い始め、盛り上がりました。ゼミごとにリズム体操やクイズ、「しらゆきひめ」などを披露。学生の熱の入った発表に、園児たちが大きな歓声を上げ、手拍子を鳴らし大喜びしていました。

保育関係者から「すごくよかった」とお礼が届き、さっそく発表会の写真を保育園内に張り出し、保護者に見てもらったそうです。

短大2学生が最優秀、優秀賞 中部学生プレゼン コンテスト



名古屋経営短期大学未来キャリア学科の竹内愛理沙さん(1年)と安藤綾花さん(1年)が、1月29日開かれた「学生プレゼンテーション・コンテスト」(日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会)で、最優秀賞と優秀賞に輝きました。富山短大など4校7名が出場。課題は自由で持ち時間5分の中で、表現、訴える力、図表のまとめ方などを競いました。

富山短大など4校7名が出場。課題は自由で持ち時間5分の中で、表現、訴える力、図表のまとめ方などを競いました。

巧みなボートさばきで初勝利 名産大卒の女性競艇選手



名古屋産業大学、菊華高校卒業生で、女性競艇選手の中北涼選手が、2月21日、常滑競艇の試合で、待望の初勝利を飾りました。プロデビュー10か月、65走目の快挙でした。

初勝利を飾ったのは、常滑ボートレース最終日第2レースで、うまいスタートダッシュをみせ、高度なハンドワークでトップを奪いゴールしました。「早く2勝目を挙げたい」と意欲をみせていました。

菊武学園7学校・園で1000名が巣立つ

ボクシング世界王者、高山選手も高校を卒業



菊華高等学校の卒業式が2月28日行われ、280名が巣立ちました。33歳の菊華高校生でプロボクシングWBOミニマム級世界王者の高山勝成さん=前列右から2人目=は卒業証書を手にし、「級友らの励ましで、苦しい時も乗り越えられた」と、喜びを分かち合っていました。

王者決定戦でも練習場に宿題を持ち込む努力を続け、高校生活で自制することを学んだそうです。今後、名古屋産業大学スポーツビジネスコースに進み、教員資格を取ってコーチを目指します。



(恩師と記念撮影する名産大卒業生)



(名古屋経営短大の学位記を渡す学長)

菊武学園の名古屋産業大学・大学院から菊武幼稚園まで7つの学校・園の卒業式は、約1000名の生徒、学生らが学び舎を巣立ち、無事終了しました。高木弘恵理事長は、「学園で学んだ愛情教育と実践教育が必ず将来、役に立ちます」と励ましの言葉を贈りました。



(菊華高では卒業生が家族に「ありがとう」とお礼を述べる)



(彩鮮やかなNWFB卒業式)



(菊武ビジネス専門学校の卒業式)

三陸・復興植樹に取り組む 大学・短大学生ボランティア隊



名古屋経営短期大学と名古屋産業大学合同の「東北ボランティア隊」(学生12名)は、3月9日~11日、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町、気仙沼市を訪れ、被災施設などを見学、「KOTネットワーク本吉」の語り部の話を聞きました。学生らは被災当時の様子を真剣に聞き入っていました。

また、全員で南三陸町の中心が一望できる山で、KOTが復興のシンボルとして進めている桜の植樹に取り組み=写真=、隣の気仙沼市では追悼式に参列して犠牲者の冥福を祈りました。



菊武夏まつり実行委員会は、夏まつりで集まった義援金のうち5万4千円を「KOTネットワーク本吉」に、公益社団法人「モリウミアス」に5万5千余円、ボランティア隊に活動資金として6万円をそれぞれ寄付しました。

ワープロ新人大会で奨励賞 菊専の1、2年生が好成績

菊武ビジネス専門学校の生徒8名が2月11日、名古屋商業高校で開かれた第23回愛知県



高等学校ワープロ競技新人大会に出場し、10分間に入力した文字数を競う「ワープロ速度競技」で、2年生の太田好規さん、田中碧翔さん1年生の太田早紀さん、橋爪斗祐真さんが、それぞれ奨励賞を獲得したほか、1年生は団体でも奨励賞に輝きました。

幼稚園児の成長祈り豆まき 鬼役の短大生が大活躍

菊武幼稚園では2月2日、豆まきをしました。今年初めて、名古屋経営短



大子ども学科の3年生3名が、鬼さん役を務め、園児約200名と節分を楽しみました。